

全国の民医連で、リハビリテーション場面に関わっていらっしゃる職員の皆様へ。

私たち、第 26 回神経・リハビリテーション研究会@東京 実行委員一同は、今回のテーマを「Community Based Rehabilitation-地域で生きる」に決めました。

地域包括ケアが提唱されてから、日々そのシステムの中で今後どうやって私たちは働いていくのか、皆様、試行錯誤をされているのではと思います。自分自身もその地域で高齢者として、患者として生活していく日が近い・遠い将来やってきます。そんな時に自分が今患者さんのために提供しているリハビリテーションやケアを同じように提供してもらえるのだろうかと不安になります。

地域包括ケアに対する考えは人それぞれかもしれませんが、高齢化が進行する今、高齢になってもできるだけ長く自分が生活してきた地域で自分らしく生きることができる、そんな地域を作り出すため今、私たちは地域でのリハビリテーションをどのように推し進めていくのか考え、行動する必要があるのではと思います。その一つに多職種協働があり、自分の働く職場だけでなく、地域の他の医療機関、事業所、訪問スタッフ、介護スタッフと連携を取る必要があります。昨年の京都での研究会では、地域包括ケア時代に向け私たちに何ができるのか、何をすべきかをディスカッションし、地域包括ケア時代に立ち向かう民医連神経・リハビリテーション分野の新しい多職種協働への挑戦宣言が作成されました。今回、実行委員会企画としてその宣言をもとにいくつかの活動を行っております。その結果を報告させて頂き、全国の皆様と今後どのように展開していくかを話し合えることを期待します。

今回の講師として、リハビリ職員で知らない人はいない、二木立先生に地域包括ケアとリハビリテーションについて教えていただけるよう講演を依頼いたしました。先生の著書「地域包括ケアと地域医療連携」に基づいて御講演頂きますので今後の医療連携について学ぶことの多い講演となると思っております。皆様、先生から先に著書を読んでくるように言われておりますのでよろしくお願ひします。(特に1章と5章)

次に、認知症の患者さんが増えてそのリハビリテーションに関わることが増えている昨今、認知症の患者さんにどのように接していくことはとても大切です。今回、この認知症の患者さんたちとどう接していけば良いのか、“魔法みたいな認知症ケア”と今評判のユマニチュードの講演を本田美和子先生にお願いすることができました。フランスで38年の実績をもつこのケア技法は「ケアをする人とは何か」、「人とは何か」を問う哲学と、言語・非言語によるコミュニケーション技法に基づいた実践的な技術で構成され、ケア対象者のみならず、ケアを実施する側にもさまざまな変化をもたらすとと言われております。今回の講演では、このケア技法の全体像を実例の映像を交えつつご紹介いただきます。

なお、最終日のオプション企画として立川相互病院内覧+横田基地見学ツアーとリハ医を対象とした新専門医制度に関する意見交流会、若手で今後専門医を受ける希望のある医師に対する試験対策に関する座談会を予定しております。こちらへの参加もお願いします。

医師・看護・リハビリセラピストはもとより、介護職・ケアマネジャー・栄養士・薬剤師・歯科スタッフ、MSWなど従来にもまして、幅広い職種の方の参加を期待します。